

静岡県知事賞

ドキドキワクワク

富士市立青葉台小学校 二年

沖島 美櫻



ヘアドネーションとは、びょう気やじこなどでかみをなくした子どものために、きふされたかみのけでウィッグ（かつら）をむりょうでつくってあげることです。

わたしは、生まれてから少ししかかみのけをきったことがありませんでした。りゆうは、七五三のおいおいをじ分のかみのけだけでむすべるようにと、お母さんと考えていたからです。二年生になって、おいおいもおわたたのでかみのけをきることにしました。きる前にお母さんが、

「かみのけをきふしようか。」
と言いました。それがヘアドネーションでした。

お母さんが、きふしてくれるびょう室をさがして、よやくをしてくれました。かみのけを少しずつのたばにしぼって、いよいよカットです。きふをする長さは三十センチメートル以上ひつようです。びょうしさんが、じょうぎをつかってカットしました。ずっと長かったので少しさみしくかんじました。するとびょうしさんが、

「大じなかみのけをきらせてくれてありがとう。たいせつにおくって、こまってる子どものためにつかせてもらおうね。」
と言ってくれました。さびしくかんじたけれど、いいことをしているんだとわかると、なんだかうれしくなりました。

かえりの車の中で、お母さんのお兄ちゃんが、むかしびょう気のちりょうのおくすりや、かみのけがぜんぶなくなっちゃったおはなしをしてくれました。お兄ちゃんは大人だったけれど、はずかしくてずっとぼうしをかぶっていたそうです。お母さんが、

「かつらはとてもたかいもので、お兄ちゃんにかけてあげられなかったよ。でもみおのかみのけは、そういうこまってる子どものやくに立てるよ。とってもしあわせな気もちになるでしょ。」

と言いました。わたしは、
(きつてすてるはずだったかみのけが、やくに立つことができ
るなんてすごいな。)

と思いました。

きふして一カ月後に、おれいのはがきがとどきました。わたしのかみのけは、どこのどんな子のやくに立っているのかなと考えると、小さな親せつは、あいてによるこんでもらえてうれしいし、じ分もドキドキワクワクできることがわかりました。

小さな親せつ、つぎは何ができるかな。



静岡県知事賞

電車での出来事

静岡市立藁科中学校 二年

大棟 真衣



それは一瞬の出来事だった。無意識のうちの行動だった。その日は、ぎゅうぎゅうと、これでもかというほど人が詰まった電車に乗っていた。私は始発から乗っていたことから、幸い座席に座ることができた。人が増えていく車内を横目に、座席に座れたことに喜びを覚えつつ、窓から見える景色に夢中になっていた。人は絶え間なく増え続け、ついには、人と人とのすき間さえなくなっていく。電車がゆれるたび、ななめ前の女性を持つバックに頭をぶつけそうになる。

ふと車内に目をやると、私の目の前に、大きな紙袋を手を提げたおばあさんが立っていた。腰が曲がっているため、つり革につかまることができず、片手で柱にしがみついていた。サラリーマンのような男性と大きなバックにはさまれ、苦しそうな表情を浮かべている。

私は焦った。なぜなら学校や周りの人からは、「お年寄りには席をゆずる」という行為が正しく、あたりまえとされているからだ。正直、私はこの席を手放したくなかった。満員電車と

いう、ほとんどの人が座れない状況で、席に座っていられるという優越感を味わっていたかったのだ。おばあさんと目が合いそうになったその時、私は顔を伏せ、目を閉じていた。ちらりとおばあさんの方を見ると、相変わらず苦しそうな表情で、小さくため息をついている。

(仕方ないじゃん。他の人がゆずればいい話だし。)

頭の中で自分を正当化して心を落ち着かせた。

人が少なくなってきた電車の中で、私は、苦しそうな表情を浮かべるおばあさんの顔が、頭から離れないでいた。

家に着いてからも、私は電車でのことで頭がいっぱいだった。悪いことをしてしまったという罪悪感と、自分は悪くない、と思う気持ちが混ざり合っている頭の中で、よく考え直した。私はどのような行動をとるべきだったのか。本当はもうわかっていて、私のしてしまったことは、人として恥づかしい行為だ。「他の人も同じだから」といつて自分が動くことから逃げていたけれど、本当はおばあさんは困っていたのかもしれない。改めて考えると、ぎゅっと心が痛くなった。

自分のほんの少しの行動で、相手を不快にさせてしまうことがある。だがそれと同時に、ほんの少しの行動で、相手をいい気持ちにすることが出来る。電車の中での出来事で私はそれを痛感した。だからこそ、同じ行動はくり返さないと心に決め

た。ほんの一瞬のことだったが、私は今でも後悔している。過去は変えられないけれど、色々な場面でたくさんの人に手を差しのべられる自分になるまで、あの日出来なかった「親切」を、私はこれからの自分に託したいと思う。そして、電車での出来事は、私が大人になってもきつと忘れない。

